

2017年3月期(第50期)

決算説明会 資料

ジーエルサイエンス株式会社
2017年5月31日

1. 当社の主な事業紹介

2. 2017年3月期（第50期）実績

- ① 連結実績
- ② セグメント別実績
- ③ ジーエルサイエンスの実績（単体）
- ④ 国内・海外／自社・他社実績
- ⑤ 2017年3月期のトピックス

3. 2018年3月期（第51期）計画

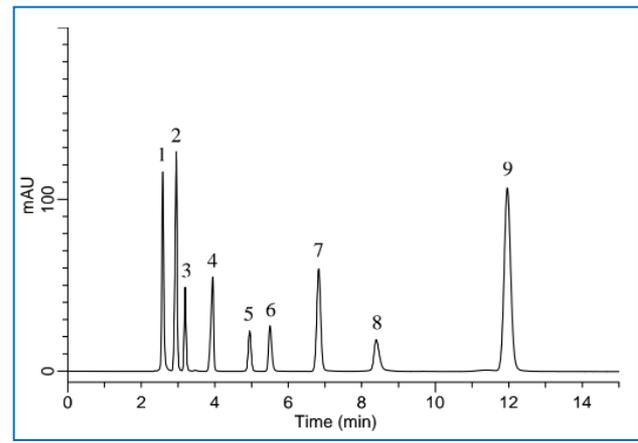
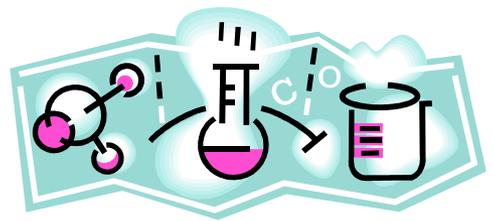
- ① 中期経営計画方針
- ② 連結計画
- ③ セグメント別計画
- ④ ジーエルサイエンスの計画（単体）
- ⑤ 国内・海外／自社・他社計画
- ⑥ 主要製品の動向
- ⑦ 新製品紹介

1. 当社の主な事業紹介

ジーエルサイエンスとは…

気体や液体などの成分分析を行なう**ガスクロマトグラフ**・**液体クロマトグラフ**や周辺機器類のメーカーです。

* 皆さんにはあまり馴染みはないかもしれませんが、クロマトグラフは、環境汚染物質の追求に使用されていたり、人間の生存に深くかかわる「バイオ研究」や「医薬品開発」、「食品検査」等々、多方面で活用されています。



ジーエルサイエンスのソリューション (GC)



ガスクロマトグラフ及び周辺製品



ガスクロマトグラフ GC-4000 Plus
におい嗅ぎシステムOP275



TCD専用ガスクロマトグラフ
GC-3200



GCキャピラリーカラム
InertCap®



システムガスクロマトグラフ



GC分取 VPS 2800



シリカモノリス捕集剤
MonoTrap®



配管や部品、ガス発生機の販売も行なっています。

ジーエルサイエンスのソリューション (LC)



液体クロマトグラフ及び周辺製品



分取HPLCシステム **PLC 761**



液体クロマトグラフ
GL7700シリーズ



HPLC用カラム **Inertsil®**シリーズ
InertSustain®シリーズ



アプリケーションも豊富です。

水質分析前処理装置

上水や環境水などの水中に含まれる、人体や環境に悪影響を及ぼす揮発性有機化合物などを測定するには、ページ・トラップや固相抽出カラムを用いる測定手法が欠かせないものとなっています。



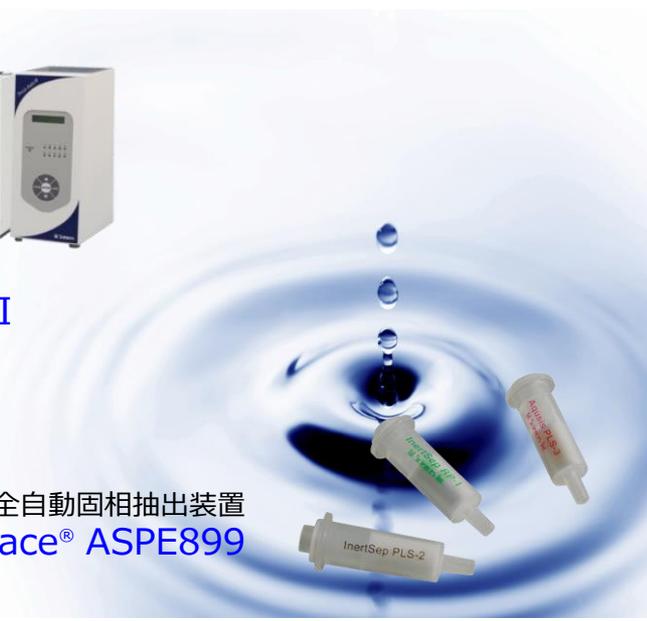
ページ・トラップ
濃縮導入装置
AquaPT 6000



固相加圧送液装置
AquaLoader® III



水質分析用全自動固相抽出装置
AQUATrace® ASPE899



固相抽出カラム
InertSep®

大気分析前処理装置

有機ガスが人体や環境、半導体などに色々な形で影響することがわかっています。

ジーエルサイエンスでは、有機ガスを捕集濃縮して測定機器に自動的に導入する装置やサンプリングバッグなどの消耗品の製造・販売を行なっています。



サンプリングバッグ



全自動キャニスター濃縮導入装置
CC 2100



キャニスタークリーニング装置
CC 2180



発生ガス濃縮装置
MD 2580M-B

食品分析前処理装置



食品固相自動前処理システム
G-Prep FAシステム

食品中に農薬がどの程度残留しているかを分析する場合、葉緑素、色素、脂肪酸、脂質、極性成分などが妨害となるため、それらを取り除く必要があります。

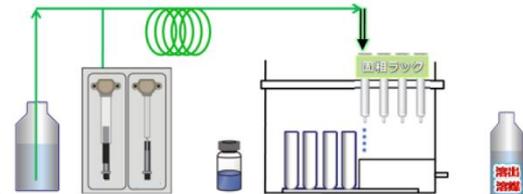
ジーエルサイエンスでは、それらを取り除く製品として固相カラムの製造・販売を行なっています。

固相カラムの使用にはある程度テクニックが必要になるため、最近では操作における個人差・日間差の解消や有害物質の取り扱いの観点から、自動化する装置を販売しています。

固相カラム処理 (自動化)

- (1)コンディショニング
- (2)試料採取
- (3)試料負荷・洗浄・脱水
- (4)溶出

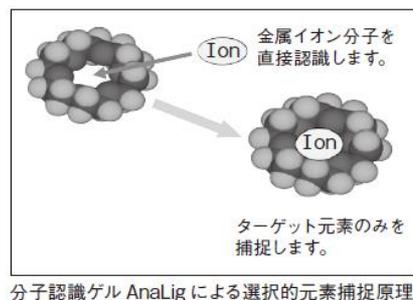
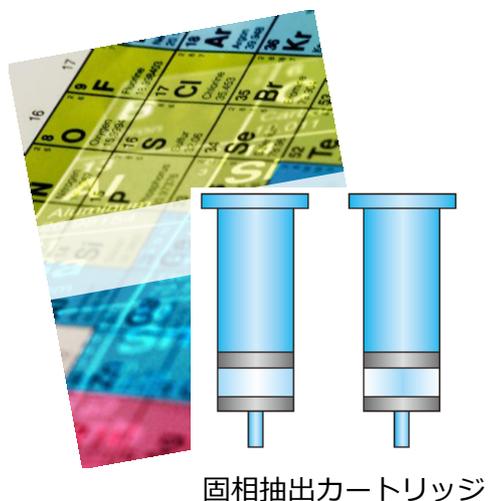
コンディショニング操作例



無機分析装置

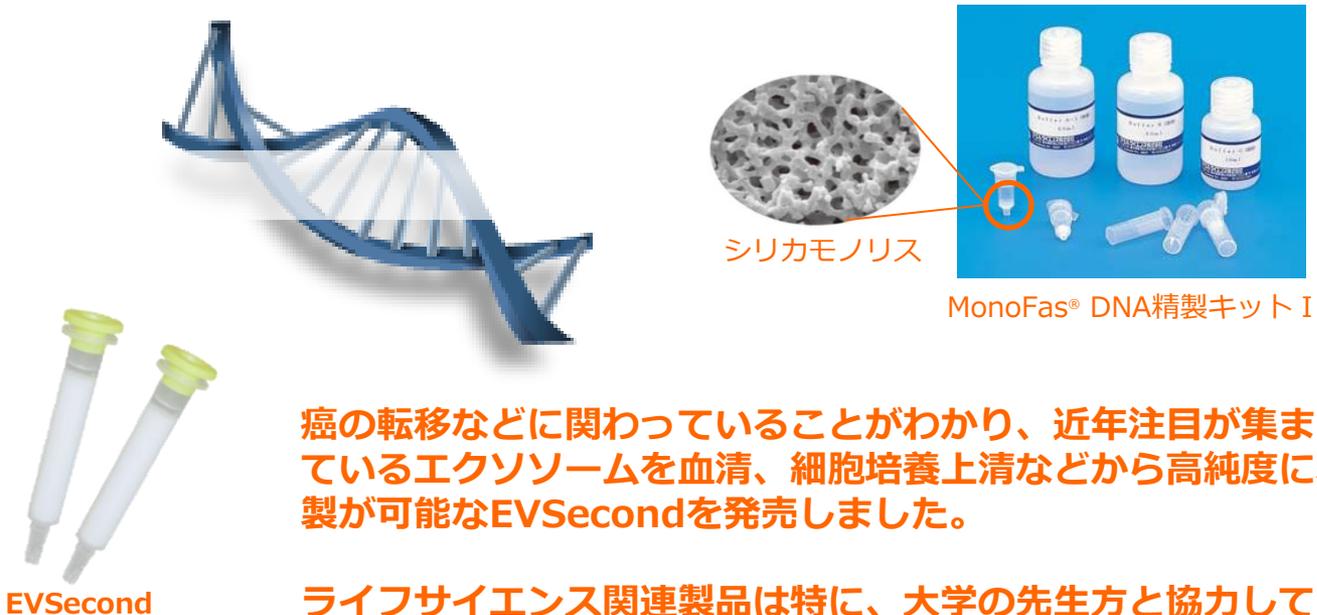
米や食品中の重金属分析や、産地判別のための金属分析、携帯電話中の貴金属分析など、金属元素を分析するニーズが多くなってきています。

ジーエルサイエンスでは、酸分解の前処理ツールや、金属を特異的に補足する高選択性分子認識ゲル MetaSEP AnaLigなどを扱っています。またお客様のご要望にお応えするため、カスタムメイド標準試薬の製造も行なっています。



ライフサイエンス関連

21世紀は生命科学の世紀と言われ、病の克服や食料・環境問題の解決など人々の生活に直結した領域での貢献が期待されています。ジーエルサイエンスでは、高い通液性と広い表面積を持つ、シリカモノリスという独自の技術を元に、生体試料や食品などのサンプルからDNAを抽出・精製するMonoFasなどの販売を行なっています。



癌の転移などに関わっていることがわかり、近年注目が集まっているエクソソームを血清、細胞培養上清などから高純度に精製が可能なEVSecondを発売しました。

ライフサイエンス関連製品は特に、大学の先生方と協力して生まれた製品が多くあります。

2. 2017年3月期（第50期）実績 （2016年4月～2017年3月）

連結実績



(単位:百万円)

	損益計算書			対計画		前期比	
	2016年3月期 実績	2017年3月期 計画	2017年3月期 実績	差額	達成率	差額	伸び率
売上高	18,499	19,655	20,582	927	104.7%	2,083	11.3%
営業利益	955	1,041	1,801	759	172.9%	846	88.6%
営業利益率	5.2%	5.3%	8.8%	3.5 ^ホ ｲﾝﾄ	—	3.6 ^ホ ｲﾝﾄ	—
経常利益	1,097	1,119	2,063	944	184.3%	966	88.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	773	748	1,318	570	176.2%	544	70.4%
EPS	¥75.42	¥72.92	¥128.52	¥55.60	176.2%	¥53.10	70.4%

- ✓ 2年連続で、増収増益
- ✓ 売上高については1997年3月期実績(18,975百万円)以来、過去最高を更新
- ✓ 3力年の中期経営計画(2018年3月期目標 売上高計画200億円、営業利益12億円)を1年前倒しで達成

ジーエルサイエンスの実績(単体)

(単位:百万円)

	損益計算書			対計画		前期比	
	2016年3月期 実績	2017年3月期 計画	2017年3月期 実績	差額	達成率	差額	伸び率
売上高	11,618	12,300	12,493	193	101.6%	875	7.5%
営業利益	639	650	980	330	150.9%	341	53.3%
営業利益率	5.5%	5.3%	7.9%	2.6 ^ホ イント	—	2.4 ^ホ イント	—
経常利益	784	717	1,192	475	166.3%	407	52.0%
当期純利益	605	502	940	438	187.3%	335	55.4%

1. 3カ年の中期経営計画(営業利益計画8億円)を1年前倒しで大幅達成
2. 営業利益重視の方針を展開し、全社レベルで活動
3. 価格改定により収益が改善
4. 主力製品イナートファミリー(特にLCカラム)の需要拡大
 - ・中国(食品、環境、医薬)、インド(ジェネリック)市場の更なる拡大、国内では製薬、食品市場が好調
5. 全自動固相抽出装置アクアトレースASPE899の順調な出荷

1. 新LC棟建設に向けたプロジェクトを始動
2. 大阪の自社ビルを売却（8月末移転予定）
3. ITを活用した業務改革の推進
4. 人材教育の推進
5. 製造部門の計画生産見直しによる原価低減
6. 株価の流動化
7. 株式会社フロムの完全子会社化

株式会社フロムについて

名称	株式会社フロム
所在地	東京都青梅市新町五丁目32番10号
代表者の役職・氏名	代表取締役 本宮 達司
事業内容	理化学機器および省力機器の開発・設計・製造・販売 OEM機器および部品の開発・設計・製造・販売
その他	平成2年10月22日に設立。資本金5,000万円(平成29年3月現在)



ポンプ



Auto Valve VF-01-1002



Auto Valve VA-11A Auto Valve VA-12A

バルブ



Gastorr BG-32 Gastorr BG-34 Gastorr AG-32 Gastorr AG-34

脱気装置



オートサンプラー



配管部品

3. 2018年3月期（第51期）計画 （2017年4月～2018年3月）

1. 新製品開発力の強化(新製品早期リリースの実現)

- ・新製品市場投入のスピードアップ
- ・社内にこだわらず、外部からの資源の取り込み
- ・経営の効率化を目指し、不採算事業の見直し
- ・環境変化に柔軟に対応できる組織作り

2. 全社業務改革

- ・営業の販売管理システムを2016年～2018年にかけて改善中。
第2フェーズ「営業仕入」構築中(2017年10月～2019年10月)
- ・勤怠管理システム、電子記録債権システム(でんさい)の導入、
及び社内ワークフローの刷新等による業務の効率化。
- ・製造工程の細分化に伴う、専門部署の新設。

3. 新規事業の柱の創出

- ・新規事業の模索の為に共同開発等も検討
⇒ 関西大学との共同研究

連結計画

(単位:百万円)

	損益計算書		前期比	
	2017年3月期 実績	2018年3月期 計画	差額	伸び率
売上高	20,582	20,925	342	1.7%
営業利益	1,801	1,533	▲268	▲14.9%
営業利益率	8.8%	7.3%	▲1.5ポイント	—
経常利益	2,063	1,617	▲446	▲21.6%
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,318	983	▲335	▲25.4%
EPS	¥128.52	¥95.82	▲¥32.70	▲25.4%

- ✓ 3カ年の中期経営計画の最終年度
- ✓ 昨年の決算説明会で発表した2018年3月期の計画(売上高20,727百万円、営業利益1,214百万円)を上方修正。
- ✓ 営業利益、経常利益はマイナス計画を見込む

セグメント別計画

(単位:百万円)

		損益計算書		前期比	
		2017年3月期 実績	2018年3月期 計画	差額	伸び率
分析機器 事業	売上高	12,792	13,105	312	2.4%
	営業利益	1,078	970	▲107	▲10.0%
	営業利益率	8.4%	7.4%	▲1.0%ポイント	—
半導体 事業	売上高	6,579	6,422	▲157	▲2.4%
	営業利益	723	513	▲209	▲28.9%
	営業利益率	11.0%	8.0%	▲3.0%ポイント	—
自動認識 事業	売上高	1,211	1,398	187	15.5%
	営業利益	2	48	46	1,914.9%
	営業利益率	0.2%	3.5%	3.3%ポイント	—

- ✓ 半導体事業は、2017年3月期の成績が好調だったが、収益率の悪化などを考慮してマイナス計画となっている。
- ✓ 自動認識事業は、安定した収益の確保と更なる業績拡大を目指す。

ジーエルサイエンスの計画(単体)

(単位:百万円)

	2016年3月期(第49期)		2017年3月期(第50期)		2018年3月期(第51期)		
	計画	実績	計画	実績	計画	前期比 実績差額	前期比 実績伸び率
売上高	11,800	11,618	12,300	12,493	12,800	306	2.5%
営業利益	534	639	650	980	900	▲80	▲8.3%
営業利益率	4.5%	5.5%	5.3%	7.9%	7.0%	▲0.9ポイント	—
経常利益	600	784	717	1,192	1,015	▲177	▲14.9%
当期純利益	420	605	502	940	710	▲230	▲24.5%

- ✓ 売上高は前期比で約3億円を上乗せした計画
- ✓ 営業利益については、海外での価格競争に伴う収益面の減少と、一時的ではありますが、大型の設備投資に関する経費、大阪支店の移転関連費用、人件費の増加などで販管費が増大することから、マイナス計画を見込んでいる

国内・海外／自社・他社計画

<国内・海外 売上高 (比率)>

(単位:百万円)

	2017年3月期 実績	2018年3月期 計画	前期比	
			差額	伸び率
国内	10,689 (85.6%)	10,800 (84.4%)	111	1.0%
海外	1,804 (14.4%)	2,000 (15.6%)	196	10.9%
合計	12,493 (100.0%)	12,800 (100.0%)	307	2.5%

※ ()内は比率

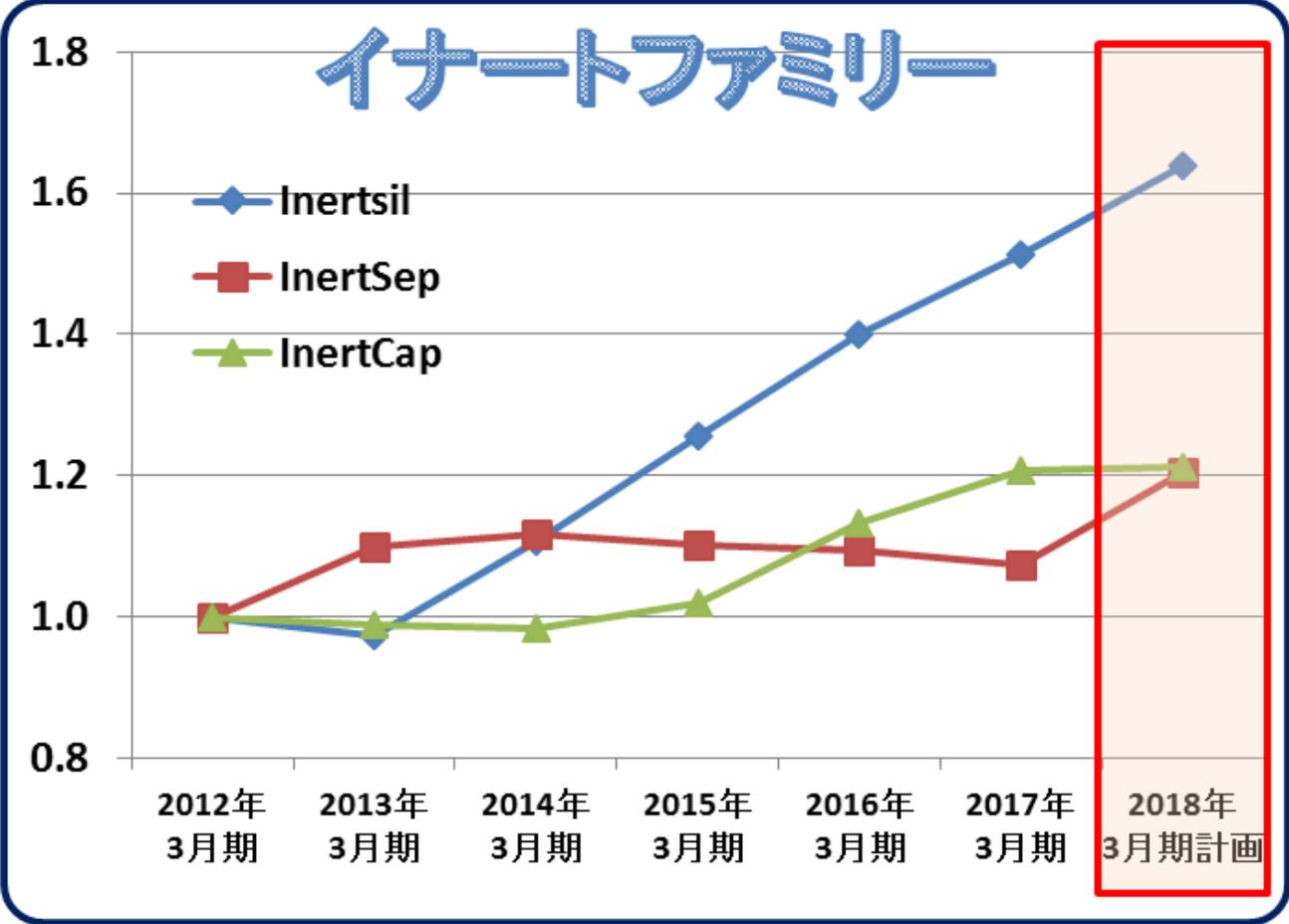
<自社製品・他社商品 売上高 (比率)>

(単位:百万円)

	2017年3月期 実績	2018年3月期 計画	前期比	
			差額	伸び率
自社製品	8,539 (68.4%)	8,847 (69.1%)	308	3.6%
他社商品	3,954 (31.6%)	3,953 (30.9%)	▲1	▲0.0%
合計	12,493 (100.0%)	12,800 (100.0%)	307	2.5%

※ ()内は比率

イナートファミリー 期別売上高比率



HPLC用カラム Inertsil



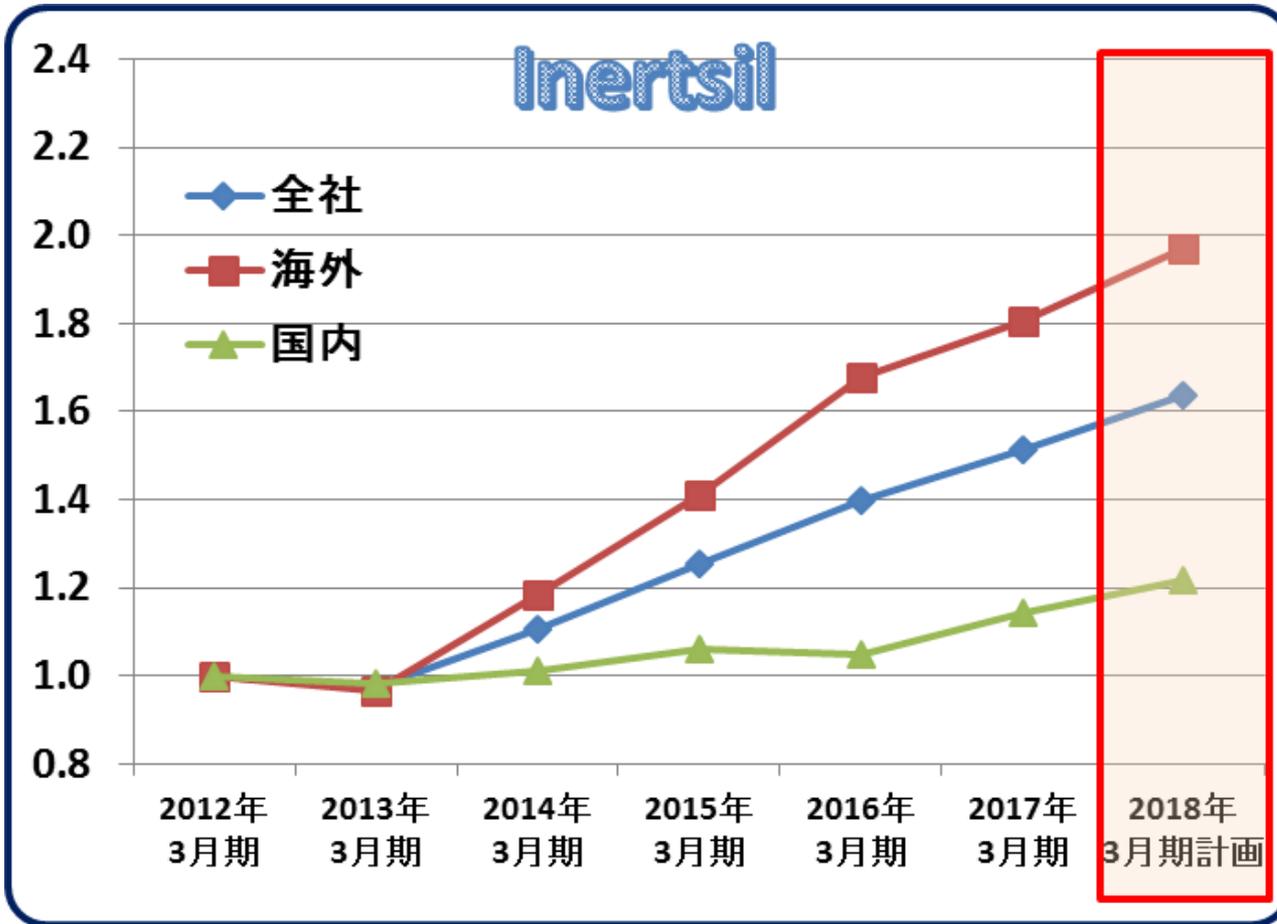
前処理固相抽出カートリッジ InertSep®シリーズ



GCキャピラリーカラム InertCap®シリーズ

2012年3月期売上高を1.0とした際の各期売上高の推移

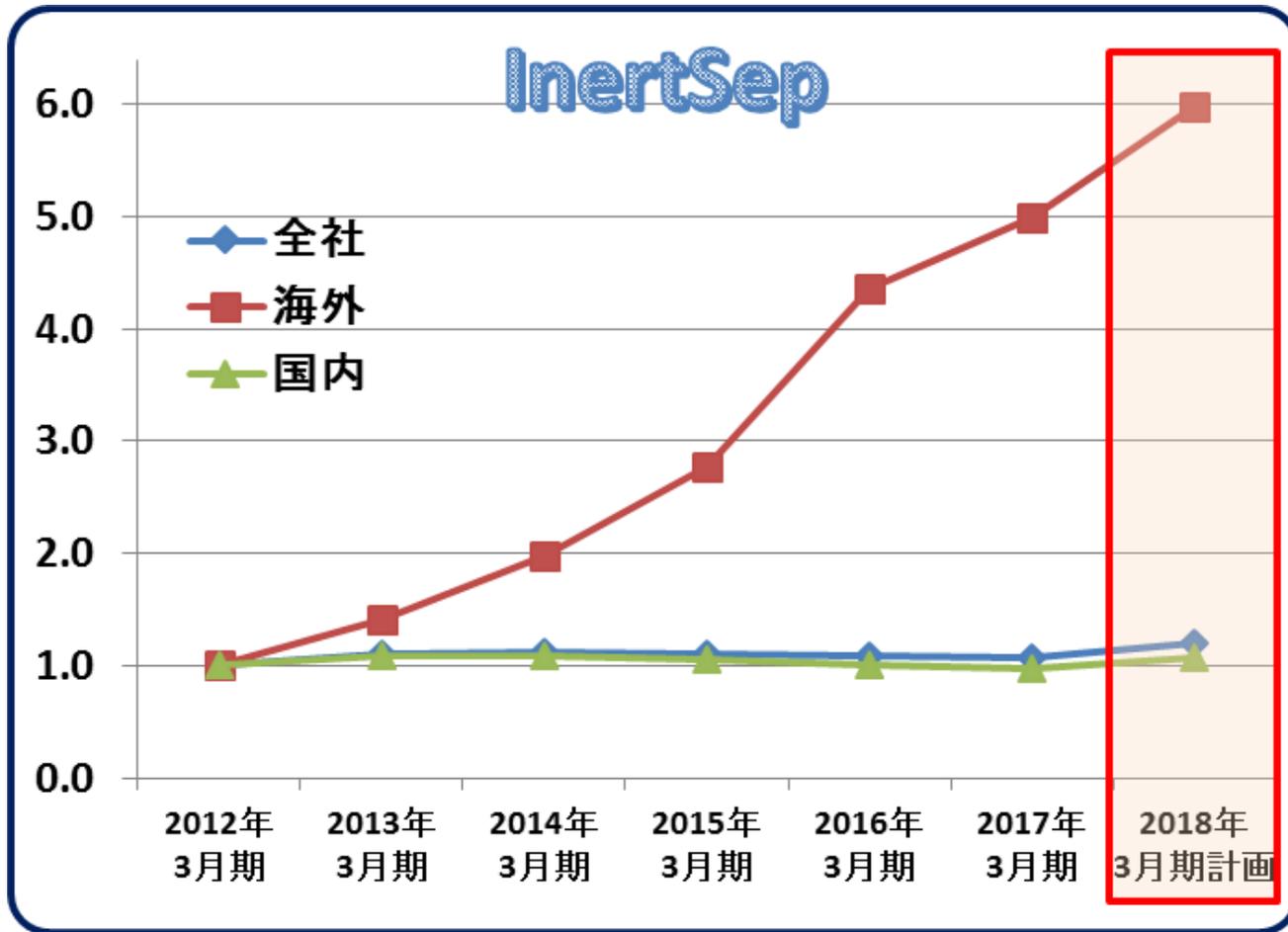
Inertsil 期別売上高比率



HPLC用カラム
Inertsil

2012年3月期売上高を1.0とした際の各期売上高の推移

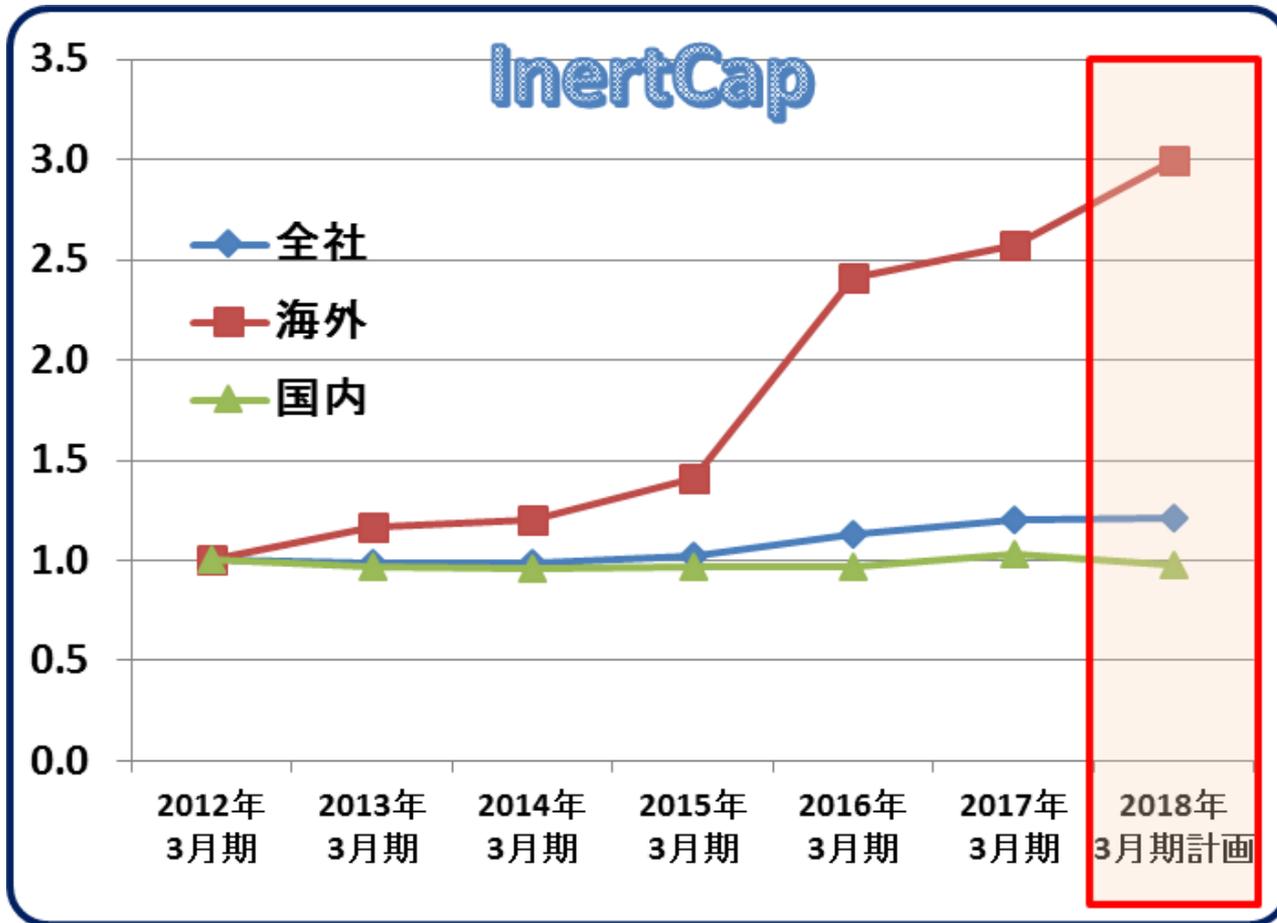
InertSep 期別売上高比率



前処理固相抽出カートリッジ
InertSep®シリーズ

2012年3月期売上高を1.0とした際の各期売上高の推移

InertCap 期別売上高比率



GCキャピラリーカラム
InertCap®シリーズ

2012年3月期売上高を1.0とした際の各期売上高の推移

ポータブル・サーマル・ディソルバー HandyTD TD265

市場の声を反映した製品となっております。

HandyTD TD265は、持ち運びができるコンパクトな加熱脱離装置です。当社捕集剤 MonoTrap や捕集管より加熱脱離により試料をGCへ導入します。

特長

- ・省スペース設計
- ・早い昇温速度
- ・各社GCに対応



新製品②

主力製品のHPLCカラムについて特長のある製品を市場に投入し続けています。

HPLC用カラム InertSphere® FA-1

第十七改正 日本薬局方ポピドン純度試験(7)ギ酸 の分析用カラムとして発売致しました。ギ酸の標準溶液で出荷検査を行い、薬局方分析で安心してお使いいただけるカラムです。

Inertsil® ODS-HL

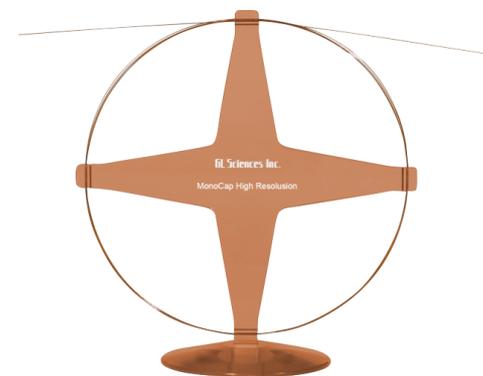
分離パターンを変えたい場合にお薦めなODSカラムです。

SYPRON AX-1

四級アンモニウム基を導入したLC/MS(/MS)分析に対応したカラムです。

MonoCap® High Resolution Fast-flow

プロテオーム解析をターゲットとする高分解能分析カラムです。



ライフサイエンス市場もターゲットに、付加価値の高い製品の開発を行なっています。

エクソソーム精製カラム EVSecond L 70



カラム準備の混和時間を大幅に短縮し、室温下で精製が行えるように改良したエクソソーム精製カラムです。サイズ排除クロマトグラフィーによる分離で、マイルドにエクソソームを回収できます。

※本製品は、東京大学大学院新領域創成科学研究科植田幸嗣先生(当時ご所属)のご協力により開発された製品です。

リン酸化ペプチド精製・濃縮ツール Titansphere®Phos-TiO MP kit



多重リン酸化ペプチドの同定数向上に着目した製品です。1リン酸化ペプチドと多重リン酸化ペプチドの同定数向上を可能にしました。

業績推移と計画(単体)

